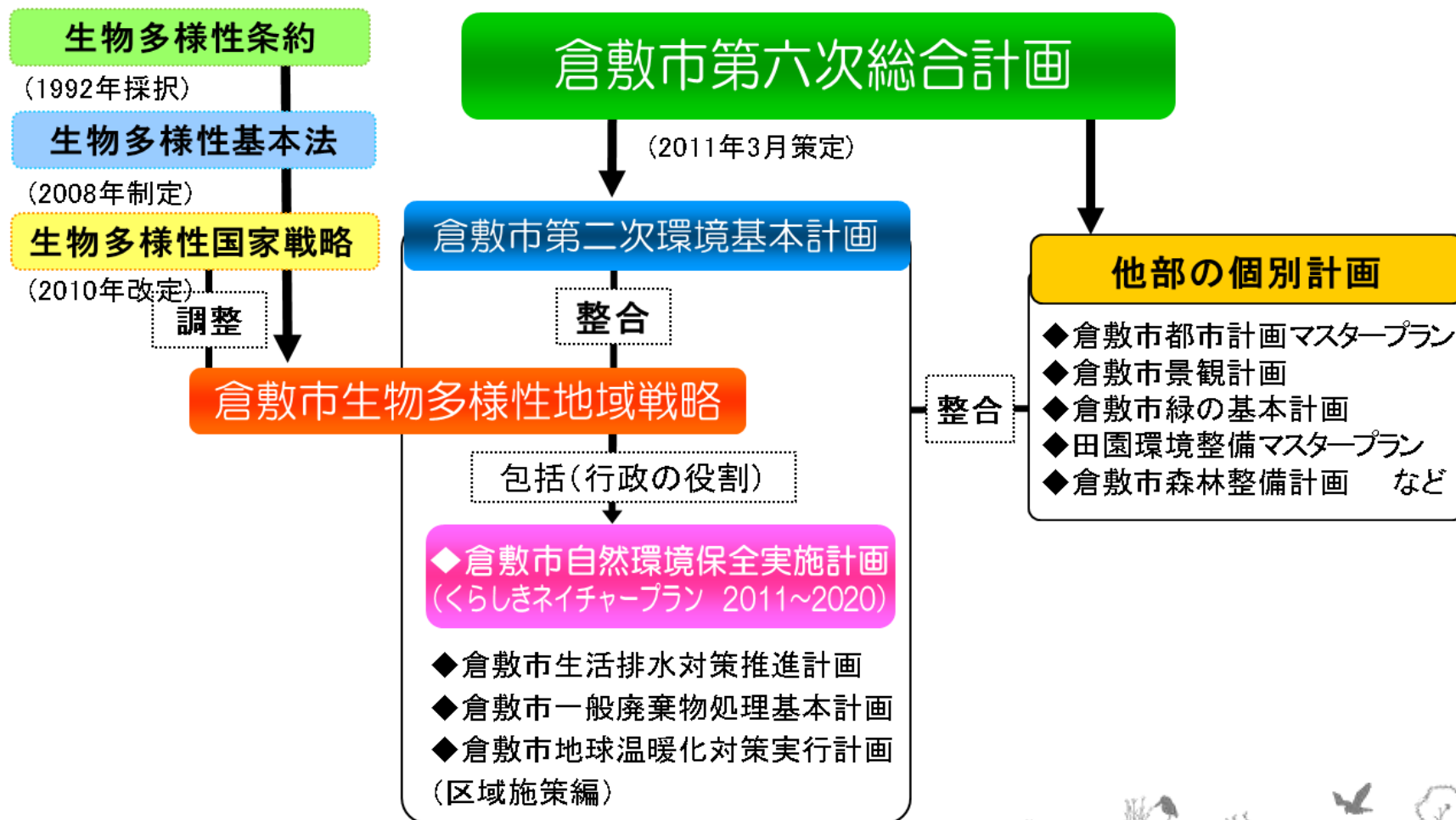


「倉敷市生物多様性地域戦略」の進捗状況等について

倉敷市生物多様性地域戦略の位置づけ

倉敷市第二次環境基本計画のうち、生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する項目を担う



倉敷市生物多様性地域戦略の目標期間

■ 戦略の短期的目標年次:平成32(2020)年度

- ・上位計画である「倉敷市第二次環境基本計画」との整合性を考慮
- ・生物多様性の普及啓発の推進と、生物多様性の持続的利用に向けた基盤づくりを行う期間



倉敷市自然環境保全実施計画(くらしきネイチャープラン)の
数値目標・取り組みの実施状況・実施計画を報告

■ 戦略の長期的目標年次:平成62(2050)年度

- ・岡山県の生物多様性地域戦略「自然との共生おかやま戦略」との整合性を考慮
- ・自然再生や社会基盤の再構築の取り組みもすすめる期間



倉敷市生物多様性地域戦略に係る行動計画

基本目標

1. 倉敷の生態系の状況と生き物と暮らしとのつながりを把握する。

2. 身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全、回復、再生する。

3. 生物多様性の恩恵を持続的に受けられるように自然資源を利用する。

4. 倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。

取り組み

1. 生物多様性調査の実施

2. 生物多様性に係る情報の整備・充実

1. 総合的・計画的な保全体系の拡充

2. 地域の自然と生態系ネットワークの保全

3. 地域ごとの自然環境の保全

4. 重要地区の保全

5. 希少野生生物の生息・生育環境の保全

6. 外来生物対策

1. 環境配慮型農業と地産地消の推進

2. 生物多様性への配慮した地域開発と産業事業活動の促進

1. 市民への環境学習機会の提供

2. 支援者、指導者の育成

3. 子どもたちへの環境教育の充実

4. 社会貢献活動や自然共生圏を意識した地域交流経済活動の支援

5. エコツーリズム等の推進

6. 自然とのふれあいの促進

恵み豊かな瀬戸内の自然を、
未来に向けてみんなの手で引き継いでいるまち倉敷

報告内容の構成

- 基本目標達成に向けた、
「数値目標達成状況」、「事業実施計画表」の2部で構成。
- ・数値目標達成状況について
 - 基準年度(基準値)、達成年度(目標値)及び平成28年度実績値を記載、あわせて目標達成に向けた傾向を矢印➡で表記
- ・事業実施計画表について
 - 事業項目を「リーディングプロジェクト」と「その他の取り組み」で表示
 - ・リーディングプロジェクト
 - ※生物多様性地域戦略の基本目標の実現に向けて戦略全体をリーディングする誘導的なプロジェクト事業
 - ・その他の取り組み(主にくらしきネイチャープランから継承するもの)



数値目標達成状況

基本目標1 倉敷の生態系の状況と生き物と暮らしとのつながりを把握する。								
番号	項目	基準値	基準年度	H28年度実績	傾向	目標値	達成年度	担当部署
1	自然環境基礎調査	1地区 (真備町妹)	2013 (H25)	0地区		継続実施	—	環境政策課
基本目標2 身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全、回復、再生する。								
1	自然環境に配慮したまちづくりができていると思う人の割合(倉敷市第六次総合計画指標)	27.4%	2009 (H21)	33.9%		54%	2020年 (H32)	環境政策課
2	地域の自然保護・環境保全に配慮した取り組みを行っている人の割合(倉敷市第六次総合計画指標)	38.4%	2011 (H23)	38.1%		72%	2020年 (H32)	環境政策課
3	多様な生き物が生息している自然環境が身近にあると感じている人の割合(倉敷市第六次総合計画指標)	32.5%	2009 (H21)	34.0%		56%	2020年 (H32)	環境政策課
4	都市公園の目標水準	7.79㎡/1人	2005 (H17)	8.11㎡/1人		10㎡/1人	—	公園緑地課
5	特定外来生物の防除	306頭: ヌートリア	2012 (H24)	337頭: ヌートリア		被害額の低減及び生息頭数の減少	—	環境政策課 農林水産課
6	自然環境に配慮した工法により整備された、河川やため池、護岸等の工事件数(H23年度からの積み上げ件数)	5件	2011 (H23)	28件		100件	2020年 (H32)	環境政策課
7	温室効果ガス排出量の抑制(市内全域)	3,957万トン	2007 (H19)	3,452万トン (H25)		3,482万トン	2020年 (H32)	地球温暖化対策室
8	市内で下水道を利用できる人の割合	71%	2010 (H22)	78.1%		77%	2015年 (H27)	下水計画課
9	合流式下水道を改善した面積の割合	22%	2010 (H22)	100%		100%	2015年 (H27)	下水計画課



数値目標達成状況

基本目標3 生物多様性の恩恵を持続的に受けられるように自然資源を利用する。								
1	地域の自然保護・環境保全に配慮した取り組みを行っている企業の割合(倉敷市第六次総合計画指標)	41.7%	2010 (H22)	46.7% (H26)		60%	2020年 (H32)	環境政策課
2	「環境保全型農業直接支援対策」取組面積	2,172a	2012 (H24)	3,794a		3,000a	2015年 (H27)	農林水産課
3	市民農園区画数	771区画	2012 (H24)	731区画		現状維持	—	農林水産課
4	新規就農者数	8人	2012 (H24)	11人		10人	2015年 (H27)	農林水産課
5	有機JAS認定農業者数(団体)	8団体	2012 (H24)	8団体		10団体	2015年 (H27)	農林水産課
6	おかやま有機無農薬農産物生産農業者数(団体)	6団体	2012 (H24)	6団体		10団体	2015年 (H27)	農林水産課
基本目標4 倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。								
1	自然の中で遊ぶことが楽しいと思っている子どもの割合(倉敷市第六次総合計画指標)	87.6%	2009 (H21)	83.1%		95%	2020年 (H32)	環境政策課
2	親子・家族で日常的に自然にふれあえる場があると思う人の割合(倉敷市第六次総合計画指標)	58.4%	2009 (H21)	58.7%		77%	2020年 (H32)	環境政策課
3	身近な自然を守る活動を行っている人の割合(倉敷市第二次環境基本計画指標)	10.9%	2009 (H21)	8.7%		20%	2020年 (H32)	環境政策課
4	自然がかけがえの無い大切なものだと感じている子供の割合(倉敷市第六次総合計画指標)	71.7%	2009 (H21)	79.9%		95%	2020年 (H32)	環境政策課
5	自然にふれる活動に参加している子どもの数(倉敷市第六次総合計画指標)	14,537人	2009 (H21)	14,543人		19,700人	2020年 (H32)	環境政策課



基本目標1:倉敷の生態系の状況と生き物と暮らしとのつながりを把握する。

➤ 1-1 生物多様性調査の実施

■ 「倉敷の生き物を探そう！」事業

【計画・事業の概要】 生物多様性地域戦略策定のための啓発事業として、市民から市内の生き物の情報収集をする。

倉敷市の木

クスノキをさがそう



くらいき -Season5-



＜28年度実施状況＞

- ・4回目は、市内の「カワセミ」について、携帯フォトシステム・クラウドサービスなどを利用して情報収集を行いました。(102件の投稿)

＜29年度事業＞

- ・環境月間である6月の広報紙にて市民からの情報(写真・日にち・場所等)を広く募集しています。

※クスノキは、倉敷市の市の木として昭和46年に制定。



基本目標1:倉敷の生態系の状況と生き物と暮らしとのつながりを把握する。

➤ 1-2 生物多様性に係る情報の整備・充実

■ 特別展（特別陳列）の開催

【計画・事業の概要】岡山県内を中心として自然史全般について常設展示で盛り込めていないテーマについて、収蔵資料や外部団体の協力を生かした展示を行う。



特別展「チョウきれい！チョーたのしい昆虫展」

＜28年度実施状況＞

- ・第25回特別展「発掘された過去・現在・未来－G7倉敷教育大臣会合応援事業 美術館ルネサンス事業－」、「新着資料-近藤光宏昆虫コレクション展-」、「おりがみ昆虫展」、「秋の鳴く虫展」、「しぜんしくらしき賞作品展」などを開催した。

＜29年度事業＞

- ・第26回特別展「チョウきれい！チョーたのしい昆虫展」、「ティラノが成羽にやってきた！化石は太古の生き物図鑑」「鳴く虫サロン」「新着資料-2017-」、「しぜんしくらしき賞作品展」などを開催した。



基本目標2:身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全, 回復, 再生する。

➤ 2-2 地域の自然と生態系ネットワークの保全

■ [河川・水辺] 自然環境に配慮した用水路・ため池・河川などの改修及び管理の実施

【計画・事業の概要】

自然環境に配慮した用水路・ため池・河川などの改修及び管理を行う。



自然環境に配慮した用水路施工事例



カワバタモロコ



スイゲンゼニタナゴ



東三間川での保護移動

＜保全実施状況＞

- ・公共工事担当課へスイゲンゼニタナゴ、カワバタモロコなど希少野生生物に関する情報提供
- ・希少野生生物の生息地の保全のため、河川, 用水路改修時に専門家のアドバイスを��て関係課と協議を行いながら保全対策(保護移動など)を実施した。



ナゴヤダルマガエル



基本目標2:身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全, 回復, 再生する。

➤ 2-3 地域ごとの自然環境の保全

■ 〔森・山〕水島地域の取り組み

【計画・事業の概要】

大平山、種松山などの山系の自然環境を保全し、自然とふれあえる場として活用を図る。



種松山野草園

＜種松山野草移植保護地＞

・昭和55年11月からの瀬戸中央自動車道建設工事に伴う野草移植保護地。

現在は、倉敷市シルバー人材センターへ委託管理しています。



野鳥観察会（円通寺コース）



＜探鳥コース＞

・市内には野鳥の観察にふさわしい地区に探鳥コース(12カ所)を設定しています。

探鳥コースを会場に毎年2回(夏と冬)、野鳥観察会を実施し、自然とふれあえる場として、活用しています。

基本目標2:身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全, 回復, 再生する。

➤ 2-4 重要地区の保全

■ 〔湿地〕 湿地復元、保護活動への支援

【計画・事業の概要】 リーディングプロジェクト

湿地復元や保護を行う自然保護団体の活動への市民参加、協働についての広報の実施、技術情報提供などにより支援する。



湿地復元作業・研修会



＜倉敷美しい森(倉敷市曽原)＞

- ・平成6年8月の山火事後、平成13年4月にオープンした森林公園で、園内では、サギソウなど貴重な湿生植物の観察やバードウォッチングなどが楽しめます。
- ・倉敷市自然保護監視員への研修を7月28日(木)に実施し、湿生植物等について学びました。
- ・重井薬用植物園が行う湿地復元作業に自然保護監視員も参加し協働作業した。



基本目標2:身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全, 回復, 再生する。

➤ 2-5 希少野生生物の生息・生育環境の保全

■ 〔河川・水辺〕 ミズアオイ群生地保全活動

【計画・事業の概要】

自然保護団体、地域住民等と協力し、ミズアオイ群生地の良好な生育環境の保全に努める。



ミズアオイ

昨年度は、6年ぶりに観察会で見る事ができました！

＜ミズアオイ群生地(倉敷市粒江)＞

・倉敷市立自然史博物館友の会や地域住民等と協力して、ヌートリア食害防護フェンスの設置やスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)など外来生物の駆除。

また、除草作業もしながらミズアオイ自生地の整備・管理・保全に努めている。

・地元小学校の児童に対して観察会等の啓発活動を行っている。

秋: 観察会 57名参加(H28.9.11)

春: 種まき会 32名参加(H29.3.26)



基本目標2: 身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全, 回復, 再生する。

➤ 2-6 外来生物対策

■ 外来生物に対する啓発と情報提供

【計画・事業の概要】

外来生物の移入などによる生態系への影響を最小限とするため、環境省など関係機関と連携し、外来生物に関する情報提供や正しい知識の普及啓発を行う

(動物)セアカゴケグモなど



<対応状況>

- ・自然保護監視員への啓発
- ・庁内関係課への情報提供と注意喚起
- ・広報紙やチラシの配布による啓発
- ・HPの充実

水島港におけるヒアリ確認



(環境省HPより)

<対応状況>

- ・8月9日に県内で初確認
- ・庁内関係課への情報提供と注意喚起
- ・環境省と県では、確認地点から約2キロ範囲で生息調査を実施し、継続監視中



オオクチバス(左)
オオキンケイギク(中)
ミシシippアカミミガメ(右)

基本目標3:生物多様性の恩恵を持続的に受けられるように自然資源を利用する。

➤ 3-1 環境配慮型農業と地産地消の推進

■ 生物多様性に配慮した農業の推進

【計画・事業の概要】 リーディングプロジェクト

生物多様性と安全に配慮した農林水産物のPR、地産地消及び旬産旬消の推進をする

<実施事業>

・地場農産物や特産物の消費拡大を図る
各種イベントの開催、PR活動などを行う

- ・地産地消料理講座
- ・ごぼうの日イベント
- ・食育フェア
- ・真備・船穂地産地消ふれあい祭り
- ・倉敷市農業祭
- ・地元生産者と連携したPR事業

など



高梁川流域農産物ガイド



倉敷市農業祭



地産地消料理講座

基本目標3:生物多様性の恩恵を持続的に受けられるように自然資源を利用する。

➤ 3-1 環境配慮型農業と地産地消の推進

■ 環境保全型農業の支援

【計画・事業の概要】

おかやま有機JASなどの有機農業や冬期湛水(たんすい)管理など生き物を育む環境保全効果の高い営農活動を支援する



カバークロップ(緑肥)の作付けとは?
主作物の栽培期間の前後のいずれかに
カバークロップ(緑肥)を作付けする取組。

＜実施事業＞

- ・環境保全型農業直接支援対策などにより
環境保全効果の高い営農活動を支援する

《支援対象取組》

1. カバークロップ(緑肥)等作付け
2. 炭素貯留効果の高い堆肥の水質保全に
資する施用
3. 有機農業
4. 地域特認取組
 - ・リビングマルチ(畑作物)
 - ・草生栽培(果樹)
 - ・夏季の水田内ビオトープの設置

基本目標3:生物多様性の恩恵を持続的に受けられるように自然資源を利用する。

➤ 3-2 生物多様性に配慮した地域開発と産業、事業活動の促進

■ くらしき地域資源の活用

【計画・事業の概要】 リーディングプロジェクト

地域資源を、老舗、特産品、魅どころとして取りまとめ、情報発信をする



くらしき地域資源BOOK & HP

＜実施事業＞

- ・倉敷市内にある多種多様な地域資源を「老舗」、「特産品」、「魅どころ」として取りまとめ、紹介しています。
- ・倉敷の魅力を全国に発信するため、ホームページやBOOK、くらしきフェア等で情報提供を行っています。



倉敷の老舗 感謝状贈呈式



～至極の逸品～くらしきフェア

基本目標4: 倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。

➤ 4-1 市民への環境学習機会の提供

■ 保全に向けた普及啓発活動／自然保護監視員研修会・連絡会議

【計画・事業の概要】 リーディングプロジェクト

講演会、出前講座等による生物多様性保全に向けた普及啓発活動をする



くらしき環境フェスティバル・講演会

<28年度実施状況>

- ・くらしき環境フェスティバル
気象キャスター井田寛子氏による「気象キャスターからみた異常気象と地球温暖化」を実施。
- ・淡水魚を中心とした水環境に関する小・中学生対象の出前講座を実施しました。

<29年度事業>

- ・くらしき環境フェスティバル
山田まりや・室谷真由美氏による講演会「地域の食を知り、美しさと健康を！」を実施。
- ・自然保護監視員を対象に、年2回の研修会を実施し、意見交換しました。



自然保護監視員研修会(年2回)



基本目標4: 倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。

➤ 4-2 支援者、指導者の育成

■ 指導者養成講座の開催／自然環境保全マニュアル研修会

【計画・事業の概要】

高梁川流域における生物多様性保全をテーマとする環境教育研修を行う



高梁川流域学校

高梁川トレイル

＜実施事業＞

- ・高梁川流域学校による高梁川流域における環境学習人材育成研修を支援する。

＜庁内連携事業＞

- ・庁内の職員を対象に、「なぜ？生物多様性の推進が今、必要なのか？」や「自然にやさしい公共工事～防災・減災との両立～」研修を外部講師を招いて年2回実施し、指導者の育成に努めた。



市役所庁内連携・研修会（年2回）



基本目標4:倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。

➤ 4-3 子どもたちへの環境学習の充実

■ 自然とふれあうイベント等の開催

【計画・事業の概要】 リーディングプロジェクト

子どもたちや親子で参加する自然体験イベントや、自然とふれあう活動を支援する



エコサマースクール



かるがもキャンプ



子育て支援・観光モデルコース 児島公民館・連携講座



＜実施事業＞

- ・子どもたちや親子で参加する自然体験イベントや自然とふれあう活動を支援する。
(エコサマースクール・水辺教室・海辺教室など)
- ・障がい児やその兄弟などを対象としたキャンプを、少年自然の家で開催する。(かるがもキャンプ)
- ・子育てポータルサイト等を通じ、子どもたちや親子で参加する自然体験活動を支援する。
- ・公民館(児島・玉島公民館)と連携して自然体験ができる講座を実施できるよう支援した。



基本目標4: 倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。

➤ 4-4 社会貢献活動や自然共生圏を意識した地域交流経済活動の支援

■ 自然共生圏を意識した地域交流、経済活動の支援

【計画・事業の概要】 リーディングプロジェクト

高梁川流域など本市が関わる自然共生圏を対象とした地域交流イベント、経済活動を支援



水島公民館・連携講座



＜実施事業＞

・水島公民館との連携講座として、山陽女子中学校・高等学校 地歴部のみなさん(14名)と玉島高校生物部(6名)、ノートルダム清心女子高校生物部(4名)、ほか社会人を含めた交流講座を初開催した。



・「高梁川でつながる森・里・川・海の力」を酒津公園周辺を舞台に実施し、高梁川流域(午前57名、午後59名、全体ふりかえり40名)の人達の交流を支援した。

高梁川流域連携中枢都市圏事業



基本目標4: 倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。

➤ 4-5 エコツーリズム等の推進

■ 生物多様性エコツアーの推進

【計画・事業の概要】 リーディングプロジェクト

本市の進める生態系ネットワークの取り組みをはじめ、経済的に循環している市内外の優良な企業の取り組みの現場等を巡るツアーの実施及び市民団体等による実施を支援



<28年度実施状況>

- ・平成28年10月21日(金)13時半～16時
～つなげよう、支えよう 森里川海～
「高梁川でつながる 森・里・川・海の力」
エコツアーの開催に関心のある個人・団体に対し、実践的な講習会を実施した。

<29年度事業>

- ・平成29年10月14日(土)10時～17時
～つなげよう、支えよう 森里川海～
「高梁川でつながる 森・里・川・海の力」

実践的なセミナーとエコツアーを実施した。

高梁川流域連携中枢都市圏事業

※その他の実施目標，計画・事業の名称・概要については
「議事2」をご覧ください。

